

課題⑥

オーディション対象..政治家

設定..旅客機の機内、CAにケチをつける乗客・斎藤

場所..出発前の航空機の座席

ステイタスの高い乗客が先に乗り込み、続いて一般の乗客が後部座席から順に搭乗するの決まりだが、斎藤は、それを無視して早々に乗り込み、自分の座席まで来ると、荷物を上の荷物収納スペースに放り込み、ドカッと座席に座った。

一般客の斎藤には、本来ならCAが座席に赴いてまで挨拶する対象ではないが、要注意人物としてブラックリストに載っている斎藤は、普段からCAの挨拶を受けることに慣れている。

この日は満席に近く、CAも出発前の準備に忙しかった。たまたま斎藤の隣に座った本当にステイタスの高い乗客にCAは早々に挨拶をすると、そのまま仕事に戻った。斎藤のところにCAが挨拶に来たのは、それからしばらく経つてからのことである。明らかにいらいらした様子の斎藤。

CA「斎藤様、いつもご利用ありがとうございます。」

むつとした表情の斎藤。

斎藤「さつきのことだけね。」

斎藤の声は、他の乗客は気づかない程の小さな声である。怪訝そうな顔をするCA。

斎藤「お嬢さん、ちゃんと考えたことあるの。」

CA「申しわけございません、斎藤様。」

斎藤「申しわけないじやなくて、ほんとにわからないの?」

困った顔をするCA。

斎藤「いい客に挨拶するのはわかるけれど、隣に座っている客の顔も見ないで立ち去るのは、その客がどんな気分になるかって、考えたことはないの?」

CA「…」

斎藤「僕は別に乗客全員に挨拶しようとっているわけじゃないけど、変に差をつけるくらいだったら、最初から挨拶なんかやめたほうがいいんじゃないかと思うんだけど。あ、これはあくまでも僕個人の意見なんだけどね。」